

令和6年度 下永谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価用）

一総括表一

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

下永谷地域ケアプラザの担当するエリアでは、高齢化率が約30%と高く、孤立や認知症、終末期ケア、精神疾患等に関する様々な相談が増加しています。地域住民、民生委員児童委員、医療機関等の関係機関と連携し、きめ細やかな支援を行っていきます。
地域ケアプラザは高齢者向けの施設と思われている方がまだ多いのですが、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に気軽に立ち寄れる福祉保健の拠点として活用いただけるように周知し、安心できるまちづくりを推進します。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ケアプラザが福祉の拠点であることを高齢者、障害児者、就労世代、また、町内会に未加入の方にも広く周知し、多様な住民同士のつながりを促進します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	介護予防事業を通じ、体力・気力低下の回復を支援するとともに、高齢化等で課題を抱える地域の活動団体の後方支援をいたします。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	チームオレンジの取組を進め、地域で認知症支援を考える「ここロバ交流会」の開催、認知症サポーター養成講座の実施等、認知症支援を強化します。 ※「ここロバ」は既に活動中の認知症支援グループ「こころをつなぐロバの会」の愛称です。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オンラインツール(WEB会議ツール、メール等)を活用し、介護、子育て、その他生活全般に関する様々な相談の対応や情報の発信を行います。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	子ども、高齢者、障害児者が地域とつながる場の提供と当事者間交流を支援し、区役所や社会福祉協議会等、関係機関との連携により、地域住民間の日常的な助け合いの体制を構築します。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

徐々に地域での活動が再開され、ケアプラザも活動支援を行ってまいりました。
特に認知症支援に力を入れ、チームオレンジ事業として災害時の支援や認知症カフェ立ち上げ準備等を行ってまいりました。
また、就労世代や障害者等への福祉活動拠点の周知強化として「しもケア祭」と銘打ち、地域住民に対してのイベントの開催をしました。
介護予防については通いづらいケアプラザの立地を考慮し、担当エリアの自治町内会館などをお借りしてなんでも相談会をはじめ健康講座、口腔ケア講座、歩行解析、もしさなゲームなど気軽に参加できる内容のものを取り入れて実施いたしました。
施設に設置してあるオンラインベースを活用した「生活支援課オンライン相談会」を開催。相談日時が設定されていることから利用につながっていないと考えられるため、体制などの検討をして対象となる方の利便性を考慮しながら検討していきます。

区からのコメント

施設周囲に坂道が多いため、ケアプラザに通いづらいという地域住民に対し、自治会町内会とも連携しながら出張型の講座等を積極的に開催するなど、常に住民の思いに寄り添いながらさまざまな活動支援を行っていただき感謝いたします。
コロナ後、初開催となった「しもケア祭」は、共にお祭りを盛り上げてくださっていた地域の皆さまの笑顔がとても印象的でした。来場してくださった多くの方にとって、地域ケアプラザが気軽に相談できる場所であり、さまざまな活動を行うことができる場所であることを改めて知っていただくよい機会になったと思います。
認知症支援事業については、こころをつなぐロバの会のメンバーとともに交流会を企画し、チームオレンジの取組に向けた準備を着実に進めています。また、「しもケア祭」では、地域との交流を図りつつ、権利擁護についての情報発信、普及啓発を進めていただくなど、地域への仕掛けを意識した取組を進めていただきました。また、包括支援センターの3職種は、日頃から細やかに連携を図っていただき、ありがとうございます。所長を含めた5職種での検討では、意見交換・相談ができる組織的な体制を整えていただいている。職員が孤立せず安心して働くとともに、地域の課題解決に向けた取組が、引き続き展開されることを期待します。